

1994. 8. 30

# Letter

No. 13

雪崩分科会総会の案内  
事業報告  
会計報告  
模擬雪崩研究グループの紹介  
全国大会の雪崩関係の発表  
新規研究企画募集  
懇親会場地図

1994年8月31日発行  
(社)日本雪氷学会雪崩分科会

## 雪崩分科会総会の案内

### ★総会

日時：1994年9月28日（水）17:00-19:00

会場：金沢大学工学部13番教室  
[REDACTED]

#### 話題提供：

1. 米国ソルトレーク市近郊スキー場での雪崩観測  
阿部 修（防災科研・新庄）
2. カナダの雪崩見聞録  
和泉 薫（新潟大・災害研）
3. リグフォーン雪崩実験 '93・'94  
西村 浩一（北大・低温研）

### ★懇親会

日時：1994年9月28日（水）19:30-21:00

会場：杜の館「はくれい」  
[REDACTED]

### ★平成6～7年度分科会役員

会長	新田隆三
監査	川田邦夫
庶務	納口恭明
会計	藤沢和範
企画	町田 誠、和泉 薫、上石 勲
編集	阿部 修、福沢卓也

## 事業報告

### ★十日町ピンポン球なだれ実験見学会

日時：1993年9月21日13:00-15:00

場所：森林総研 十日町試験地

参加者：32名

★1993年度雪崩分科会総会

日時：1993年10月17日18:00-20:00

会場：新庄市民プラザ 第5、6研修室

出席者：38名

★新庄ピンポン球なだれデモンストレーション

日時：1993年10月21日9:00-10:00

場所：防災科研・新庄

参加者：20名

★第5回雪崩対策の基礎技術研修会

日時：1994年4月13日～15日

会場：新潟県湯沢東映ホテル

研修生：56名

## 会計報告

★1993年度収支決算（1993.4.1～1994.3.31）

<収入>

備考

前年度よりの繰越金 207,009

雪氷学会より 100,000

（雪崩研修会）

会費 186,000

計 493,009

<支出>

備考

第11回雪氷フォーラム 50,000

（関東以西支部）

協賛金

連絡通信費 49,164

（コーズレター等）

幹事会旅費 58,200

（十日町6名）

計 157,364

'94年度繰越金 335,645

なお、1993年8月4日に日本雪氷学会は社団法人として認可されたため、1993年度の決算については、1993.8.4～1994.3.31の間について監事より監査を受け、

その結果を1994.4.28日付けで(社)日本雪氷学会に報告している。

## 模擬雪崩研究グループの紹介

納口恭明

本研究グループは、昨年度の雪崩分科会の新規研究企画として採用されたもので、本物の雪崩ではないが雪崩らしきものを通して雪崩の実体にせまろうとすることを目的とするものです。

一般に本物の雪崩に接する機会は、たとえ雪崩を専門に研究している人にしても、それほど多くはありません。このわずかの体験を科学技術の域にまで高めるには、模擬雪崩研究が重要な意味を持つてくるのではないのでしょうか。

本研究グループでは、活動の一環として、昨年2度にわたって、ピンポン球のなだれ見学会を企画しました。今年も、模擬雪崩シンポジウムを下記のとおり計画しております。

### ★ピンポン球なだれ見学会

日時：1994年9月7日(水) 13:00-14:00

場所：森林総合研究所 十日町試験地

### ★模擬雪崩講演会

日時：1994年9月7日(水) 15:00-17:00

場所：クロス10 3Fレセプションホール

司会：遠藤八十一(森林総研十日町)

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1. 本物の雪崩と模型実験      | 上石 勲((株)アルゴス)  |
| 2. 密度流による粉雪雪崩の模擬実験 | 福嶋祐介(長岡技術科学大学) |
| 3. おが屑を用いた雪泥流の模擬実験 | 口中廣美(関西電力株式会社) |
| 4. 軽い粒子を用いた雪崩の模擬実験 | 納口恭明(防災科研・長岡)  |

参加申し込み：遠藤八十一 森林総合研究所 十日町試験地



全国大会の雪崩関係の発表

9月27日(火) 口頭発表 10:36~12:00 座長 西村浩一、納口恭明

109. 雪崩の流下延長と落差の関係

武士俊也、網木亮介(建設省・土研)、○松田宏(国際航業(株))

110. 可能性線形回帰分析の雪崩到達範囲予測への適用

○武士俊也、網木亮介(建設省・土研)、須原茂(ハシフィックコンサルタンツ)

111. 石川県における雪崩災害

和泉薫、小林俊一(新潟大・災害研)、大関義男(元森林総研・十日町)

112. 雪崩誘発装置ガゼックスの効用について

早川典生(長岡技科大)、川田邦夫(富山大)、上石勲((株)アルコス)、  
○千葉京衛(長岡技科大院)

113. 雪塊の粒径変化に着目した雪崩流動モデル

○辻本浩史(日本気象協会・関西)、小玉優(関西電力)

114. ピンポン球雪崩の運動と構造(2) - 粒子運動の解析 -

○小杉健二、佐藤篤司、阿部修(防災科研・新庄)、納口恭明、山田穰、  
小林俊市、岩波越(防災科研・長岡)、西村浩一(北大・低温研)、和  
泉薫(新潟大・災害研)

115. 雪泥流の凝集構造

上石勲(アルコス(株))、○小林俊一、和泉薫(新潟大・災害研)

9月28日（水）ポスター発表Ⅲ 15:00-16:30

501. 有限要素法による雪崩防止林の防災機能評価手法について

島村誠、鈴木博人（JR東日本・安全研）、松田益義、○西村寛（MTS雪氷研）

502. スラッシュ雪崩の発生機構に関する実験的研究

○越川博之（富山大院・理）、川田邦夫（富山大・理）

503. 雪崩多発期の気候

S.Ferguson、P.Hayes（アメリカ林野庁・森林局）、○中村勉、五十嵐高志、山田穰（防災科研・長岡）

9月29日（木）口頭発表 16:12-17:12

148. カナダにおける雪崩事故予防講習会について

和泉薫（新潟大・災害研）、D.McClung（UBC, Canada）

151. 簡便雪崩模擬実験

納口恭明（防災科研・長岡）

**新規研究企画募集**

雪崩分科会ではその活動を活性化するため、会員間に関心のある調査・研究課題等について研究会を組織し、より多くの関心ある人達の検討を加えて研究が発展するように願って会合費程度の援助をするようにしています。

企画の応募をご希望の方は、形式はありませんが、研究部会名、簡単な目的と内容、代表者名（世話役）等をメモして分科会長もしくは分科会庶務宛にお知らせ下さい。

# 懇親会場地図

